（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1073100214		
法人名	株式会社　矢口福祉サービス		
事業所名	グループホーム「なかよし」		
所在地	群馬県邑楽郡板倉町大字大高嶋　1733-11		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7　群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

重度な利用者が多いため体調管理には、特に気おつけている。 口からの摂取が難しい方には根気よく時間をかけ食事のお世話をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

入居時から介護度の高い利用者が多いが、さらに重度化しても引き続きホームでの生活を支援している。食べられなくなったら退所してもらう方針のため、職員はいかに「食べてもらうか」という「食べる」ことを重点的に考え支援して、少しでも長くホームに居てほしいと願っている状況である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	親しみやすい言葉と職員とともに考えているが、業務に追われて検討中である	開設時の理念を掲げている。地域密着型サービスの意義をふまえた理念の作成を運営推進会議の議題に上げているが結論は出ていない。	開設時の理念を大切にしながら地域との関係性を盛り込んだ理念の検討を引き続き検討してほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	重度の方が多く、なかなか地域の行事等に参加出来ないが近所のボランテァの方に（紙芝い、カラオケ、アコーデオン等）きて頂きます。	併設のデイサービスを訪ね利用者と交流をしている。地域の行事への参加の声はかかるが、重度の利用者が多いため参加は控えている。地域のボランティア（紙芝居・アコーデオン・マジック等）の訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	板倉高校生の就業体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告をし、率直な意見を出していただけるよう働きかけている。これらの意見を参考にしている。	22年4月と11月に開催し、ホームの現況や運営状況が報告されている。利用者家族1名・町職員・民生委員・自治会長が参加している。年に6回定期的に開催されていない。	行政が参加して定期的な開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの回覧物には必ず目を通し、講演・勉強会等への参加に努めている。	何かあれば連絡や相談をしている。代表者は町から委嘱された委員として役場と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加した資料を基に職員の理解を深めていきたい。	玄関はデイサービスと共用なので、デイサービス利用者の状況により、時間帯によって玄関を施錠している。	玄関の施錠が身体拘束に含まれるということを職員が認識して、施錠しないケアを話し合ってほしい。研修への参加を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加、資料には必ず目を通す。また職員の健康管理が大切と考えている、常に心の余裕を持って、高齢者への支援をしていきたい。。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加している。必要とされる時は、情報提供できるようにしておきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の方とは、なるべく、話し易い雰囲気に心掛け、会話の時間を多く持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉で表現できない利用者には、行動や態度から思いに気づくよう努力している。自由に話ができる雰囲気作りに心がける。	重度の利用者が多いため、職員が顔の表情等を推察している。家族からは利用料の持参時に「何かないですか」と聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員のとのコミニュケーションを図るよう心がけ、ミューティングより意見や要望を聞くようにしている。職員の意見を反映させ、質の向上につなげるため、情報を共用していく。	代表者が日常業務を行いながら職員とコミュニケーションをとり定期的な会議時や何かあった時に話し合いを持っている。職員からは利用者の食事介助の方法等の意見が出て話し合いを持った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意欲がもてる職場つくりを心がけている。努力や実績を正しく把握したいと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各人が意欲を持てるよう配慮し、研修会・講演会の活用に努めている。研修内容は必ず回覧し内容を共有する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しているが、心身ともに重度な方が多く参加出来ないでいる。他のホームとは電話などで意見交換などをする。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に必ず本人に会って、心身の状態や本人の思い、不安などを理解するよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、充分話を聞きとり家族の希望をよく把握していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境が変わってしまうことに対して暖かい精神的援助に心掛けている。職員に情報の共有を働きかける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬することを忘れず、学ぶ姿勢で言葉遣いにも充分注意し謙虚な気持ちで対応していきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の言葉に耳を傾け思いを共有することで本人を支えて生きたい。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の思いに寄り添うように心掛け、家族との関係も蜜に出来るよう、間をとりもっている。	本人の介護度が進むにつれ友人等の訪問が遠のいているが家族や親戚の訪問があるため、馴染みの関係継続に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に、いさかいとなる事あり。お互い尊重できるよう、個別に話を聞いたり、わけ隔てない対応を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や、家族の心配事など電話で相談にのる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で声をかけ、言葉や表情などから真意を推し測り、また家族から情報を得それとなく確認するように配慮している。	本人が言葉をなかなか発することができないために家族から聞いたり一緒に生活する職員が思いを推し量って意向の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ること探しをしながら、本人らしく暮らしていただけるよう心掛けている。先入観にとらわれず謙虚に利用者の言葉に耳を傾けていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プライバシーを守って、今までの生活情報を得、より深くその人を理解できるように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題となることを職員全員で話し、利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、介護計画の作成に生かしている。	モニタリングの期間に統一性がない。介護計画は介護度変更時と認定期間で介護計画の見直しを行っている。	月に1度のモニタリングを参考に現状に即した介護計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに生かせる事を、誰にも伝えやすい言葉で記録するよう心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少しづつ変化していく状態に対してその時の状態にあった対応をするよう心がけていく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる踊り、紙芝い、カラオケ、アコーデオン、手品等が行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前のかかりつけ医での医療が受けられるよう本人と家族の希望に応じている。	協力医は23年1月に重度の利用者が多いために辞退され新しい協力医にお願いしている。週に1度全員の往診支援をしている。かかりつけ医とも連携し、受診の支援もしている。診断内容は特に問題がない場合は家族訪問時に説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の厚生病院に入院することが多いが、なるべく詳しく情報を伝え、早期退院できるよう、職員がまめに面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの確認書のようなものはまだ無いが、検討中。ご本人の苦痛無い生活を基本に、施設で出来ることに全力を注ぎ、話し合いに努めている。	終末期において「食べられなくなったとき」は病院にお願いしたいと家族に説明している。事業所の方針の文章化はされていない。	重度の利用者が多い状況下なので事業所の方針を作成し、家族等関係者に説明して共有してはいかがか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講演会に職員が参加するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが他の災害訓練は検討中である。	1回の避難自主訓練を併設のデイサービスと合同で行っている。備蓄の用意はある。近隣住民への協力依頼は行っていない。	年に2回の消防署立会いの下での総合訓練を行い職員が避難技術を身に付け重度の利用者の避難を導いてほしい。近隣住民への協力依頼をお願いしてはいかがか。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し言葉遣いには特に気をつけ本人の思いやプライバシーを守っていくよう努めている。	親しみを込めて「～ちゃん」と呼んでいたり、動きやすいようにパジャマを着ている利用者がいる。「生きるために食べてもらっている」ことに時間を費やしている現状である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを多くし利用者の意思表示を注意深く観察し思いや希望を汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう常に話し合っている。一人ひとりの状態や体調に配慮し、本人の気持ちに添うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	さりげなく身だしなみを直したり、おしゃれの話題で声を掛けたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく食べられるよういろどりを工夫したり季節料理、郷土料理等を提供している。	介助が必要な利用者が8人いるため職員は介助終了後お弁当を食べている。	食事が美味しい・美味しくないを職員が感じるためにも同じ物を食べることからはじめて欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録して職員が把握し利用者に声賭けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ハブラシも柔らかいものにし、歯肉にも気をつけて行っている。義歯装着にも不快感の無いよう気をつけて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便秘改善の為、毎日話し合っている。オムツ減らしも行えている。各々の方のパターン・サインを把握するよう努めている	家族への経済的な負担の軽減等で日中に排便を促しトイレでの排泄支援をしている。夜間は全員おむつをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・葛湯・イモ類・野菜等も多く摂るようにしている。水分に配慮し、体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在のところ、個別対応は出来ていない。午前中入浴であるが、入浴時間について検討中。	曜日が決められている。火曜・木曜日午前中の入浴支援をしている。外出時や家族の来訪時の前日や汚れてしまった場合にも入浴支援をしている。	曜日や時間帯を決めずに利用者の入れるタイミングでの入浴支援を試みてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望を聞くようにしている。なるべく夜は良眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いが起こらないよう、わかり易く整理保管に心掛けている。薬の作用、副作用について皆で学習していく。変化があった時は詳しくわかりやすく記録していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人柄、生活歴から個性を引き出せるように声かけしている。催し物での写真を家族に渡している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外気浴に心掛けている。散歩、ひなたぼっこ等。	事業所としては重度者が多いため外出や外気にあたってもらうことも困難であるため外出等の支援はしていない。家族支援でドライブや散歩に出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えますと伝えている。家族より電話があった場合は本人とも話すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量・明るさ・音楽を流したり、工夫している。花などを飾り季節感を取り入れている。	玄関はデイサービスと共用である。利用者のお習字の作品や写真が掲示されている。 テーブルや椅子・ソファやテレビが置かれている。ベランダからは日が差し込み明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席順なども変えたりして、居心地に配慮している。生花もなるべく置くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ﾍﾞｯﾄの位置を変えたり、引き出し等を使いやすくするよう、仕切りや大きな表示を付けたりしている。	利用者の状況によりマットレスが床に置かれ怪我の無い様に工夫されている。衣装ケースやたんすが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をしたり各部屋がわかるように工夫している。		